

Biodiversity Report in Sapporo-city

札幌市 生物多様性レポート

〈平成27年度〉

平成28年(2016年3月)

札幌市



目次

生物多様性さっぽろビジョンの概要	2
コラム～生物多様性の基礎知識～	3
札幌市の取組	4
企業・団体の取組	8
生物多様性さっぽろビジョンの進行管理	9
札幌市の取組一覧	10

札幌市は、平成24年度に策定した「生物多様性さっぽろビジョン」に基づき、今、温暖化と並ぶ深刻な地球環境問題となっている生物多様性を守るため、さまざまな取組を進めています。

札幌市生物多様性レポートでは、平成26年度の取組について報告します。

生物多様性さっぽろビジョンの概要

札幌市では、生物多様性に関する取組の方向性を示す長期的な指針として「生物多様性さっぽろビジョン」を策定し、体系的・総合的な施策の推進を図っています。

札幌市は、190万人を擁する一大消費地でありながら、南西部には山地が広がるなど豊かな自然が残っている大都市です。

ビジョンに掲げる「北の生き物と人が輝くまち さっぽろ」の理念のもと、市民やNPO、事業者などのあらゆる主体とともに、生物多様性の保全のため、札幌市の自然環境を保全するとともに、市民一人ひとりのライフスタイルの見直しを進めていきます。

「生物多様性さっぽろビジョン」の体系図

理念

北の生き物と人が輝くまち さっぽろ

目標

豊かな生物多様性と共生する都市づくり

生物多様性に配慮したライフスタイルの実践

伝統資源の継承及び創造

推進する施策

土台形成 意識/参加/連携

施策の柱1

理解する

生物多様性に対する理解を深めます

- ① 自然とのふれあいの場の充実
- ② 環境教育・普及啓発
- ③ 調査分析・情報共有
- ④ 生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する技術の向上

施策の柱2

協働する

生物多様性の保全に皆で取り組みます

- ① 活動主体の育成、支援
- ② 連携の仕組みづくり

実践行動 保全/持続可能な利用

施策の柱3

継承する

生物多様性を守り育て、将来に伝えます

- ① 生息・生育環境の保全と拡大
- ② 野生生物をめぐるトラブルの軽減
- ③ 環境負荷の低減
- ④ 歴史的文化的資産の継承

施策の柱4

活用する

生物多様性の持続可能な利用を進めます

- ① 自然を活かすライフスタイルの推進
- ② 環境に配慮した消費行動の推進
- ③ 持続可能な社会経済活動への活用

札幌市の鳥は、
わたくしカッコウなのです。
生物多様性について
わたくしが解説するッコー



札幌市の生物多様性
PRキャラクター
カッコウ先生

生物多様性の基礎知識

生物多様性とは

“生き物どうしのつながり”を表す言葉です。

地球上には、約175万種、未知のものも含めると3,000万種とも推定される生き物が存在しています。すべての生き物は、食べたり食べられたり、競争したり、助け合ったりして、互いに関係しながら複雑につながりあって生きています。このように、生物多様性とは、様々な生き物が存在し、それぞれがつながり合っている状態のことをいいます。

生態系サービス

私たち人間の命と暮らしは、
生物多様性の恵み(生態系サービス)に支えられています。

すべての生命の基盤です

植物が酸素をつくり、微生物が豊かな土壌をつくるなど、多くの生き物の営みによって、生命の生存環境が支えられています。



生活の糧です

多様な生き物は、衣服・食物・木材・燃料・医薬品など生活に必要な資源として、衣・食・住を支えています。



豊かな文化の根源です

地域の多様な生態系や生き物は、精神的豊かさ、自然観などの形成などに寄与し、祭り・宗教・郷土料理など、地域の自然に根づいた文化の土台となっています。



生活の安全を支えます

豊かな森林生態系は水を蓄えたり、二酸化炭素を吸収するほか、土砂崩れの防止や防風などの機能を持っています。

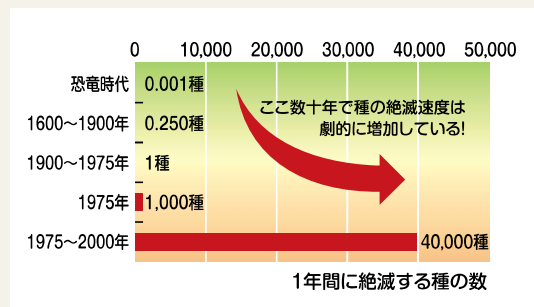


生物多様性の危機

今、多くの生き物が絶滅の危機にあります。

生物多様性は、主に人間活動の影響により、4つの危機にさらされ、急速に失われつつあります。現在、1年間に4万種ともいわれるスピードで生き物の絶滅が進んでおり、将来的には人類も存亡の危機に直面することが懸念されます。

- **第1の危機：開発や乱獲による危機**
開発や乱獲、過剰な採取によって、多くの生物が絶滅の危機に直面しています。
- **第2の危機：自然に対する働きかけの減少による危機**
人工林や農地の放置等により、里地里山に暮らす動植物が絶滅の危機にあります。
- **第3の危機：外来種や化学物質の持ち込みによる危機**
外来種が在来種を捕食したり、生息・生育場所を奪ったりしています。化学物質の中には動植物への毒性をもつものがあります。
- **第4の危機：温暖化など地球環境の変化による危機**
平均気温が1.5～2.5℃上がると、動植物の20～30%は絶滅のリスクが高まるといわれています。



生物多様性を守るには

できることから始めましょう。

自然環境や札幌に生息・生育する動植物を守るだけでなく、省エネルギー・節電などの地球温暖化対策や、地産地消やごみ減量など、環境に配慮した行動は生物多様性の保全につながります。

生物多様性を守るために今すぐできる行動をまとめた「今、できることから始めよう!! ～生物多様性さっぽろ実践ハンドブック～」をもとに、今、できることから始めましょう。



札幌市の取組

札幌市では、「生物多様性さっぽろビジョン」に基づき、生物多様性に対する理解を深め保全に向けた行動の実践を促進するため、さまざまな取組を進めています。

生物多様性の保全

自然環境の保全とライフスタイルの見直しを進めます。

生物多様性推進事業

環境局 環境共生推進担当課 Tel.011-211-2879

まちなか生き物活動

理解 協働 継承 活用

「まちなか生き物活動」は、生物多様性に対する市民の関心と理解を深めるとともに、多様な主体の行動や連携の促進を図ることを目的とし、まちなかで生物多様性の保全に関する活動を行うもので、NPO団体や企業などから広く企画提案を募集し、優秀な企画提案者に対し業務を委託し、実施しました。

平成26年度は、「コウモリが飛ぶ！みどり豊かなさっぽろのまち～大人のための生物多様性講座～」と「ミツバチが教えてくれる生き物とのつながりプロジェクト」を実施しました。

「コウモリが飛ぶ！みどり豊かなさっぽろのまち～大人のための生物多様性講座～」では、51名の参加者が、札幌のまちなかに生息するコウモリの観察を行いました。また、「ミツバチが教えてくれる生き物とのつながりプロジェクト」では、のべ78名がミツバチ観察や採蜜体験、料理教室等に参加したほか、紙芝居を作成しました。

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/machinaka.html>



コウモリ観察会



はちみつを使った料理教室

生物多様性さっぽろ絵本コンテスト

理解 協働 継承

札幌市では、平成26年6月から8月にかけて、生物多様性をより身近に感じ、将来に引き継いでいくことの大切さを伝えるため、子ども向け絵本作品を募集する「生物多様性さっぽろ絵本コンテスト」を実施しました。

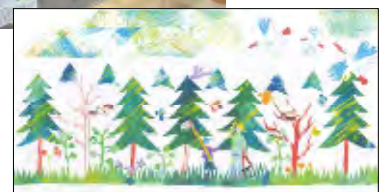
審査の結果、応募のあった20作品のうち、最優秀賞1点、優秀賞5点、審査員特別賞1点が選ばれ、最優秀賞作品「アケアケの森」については、絵本を作成し、市内の小学校や図書館などに配架しました。

また、紀伊國屋書店札幌本店や札幌エルプラザなどで、「生物多様性さっぽろ絵本コンテスト作品展」を開催し、多くの方に入賞作品を鑑賞していただきました。

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/ehon.html>



作品展の様子
(札幌エルプラザ)



最優秀賞：アケアケの森

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク



札幌市では、平成25年10月、札幌市内の環境関連施設による「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」を立ち上げました。

このネットワークは、生物多様性保全の活動拠点として位置付ける16施設（平成28年1月現在）及び札幌市で構成し、拠点間の情報共有や連携・協働を進め、生物多様性に対する市民の理解促進と市内全体の生物多様性保全活動の活性化を図っています。

平成26年度は、平成26年7月から平成27年1月にかけて、13カ所の活動拠点をめぐる「いきものつながりスタンプラリー」を開催し、212名が参加しました。

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/network.html>



●活動拠点

札幌市円山動物園
札幌市博物館活動センター
札幌市環境プラザ
札幌市百合が原緑のセンター
サッポロさとらんど
サンピアザ水族館

北海道博物館
札幌市豊平公園緑のセンター
札幌市平岡樹芸センター
札幌市豊平川さけ科学館
札幌市青少年山の家
札幌市滝野自然学園

札幌市北方自然教育園
サッポロピリカコタン
札幌市定山溪自然の村
札幌市動物管理センター

こんちゅうウォッチ

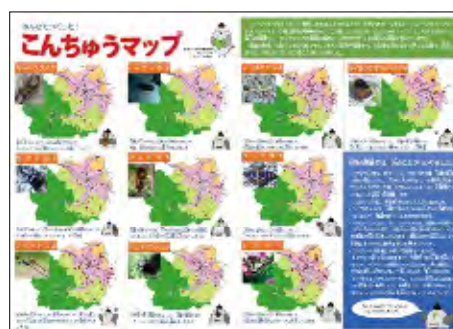


札幌市では、平成26年7月19日～8月31日にかけて、さっぽろ生き物さがしプロジェクト「こんちゅうウォッチ」を行いました。「こんちゅうウォッチ」は、ミヤマクワガタやノシメトンボなど10種類の昆虫を中心に、札幌市内の昆虫の生息状況を調べるもので、参加した皆さんには、確認した昆虫を、見つけた場所や写真と一緒に報告していただきました。調査には、122チーム577名が参加し、述べ3,638地点で436種類の昆虫の報告がありました。

皆さんからの報告をもとに、10種類の昆虫が札幌市内のどこで見つかったかを「こんちゅうマップ」としてまとめたほか、「こんちゅうウォッチ表彰式」を行い、チーム別得点ランキング第1位とチーム別参加者ランキング第1位のチームを表彰しました。

また、「こんちゅうウォッチ」の結果をもとに作成した「こんちゅうマップ」や参加者が撮った昆虫写真を展示する「こんちゅうウォッチ展」を開催しました。

http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/konchu_watch.html



自然環境 の保全

札幌の自然環境や札幌に生息・生育する生き物を守ります。

地域住民による野生生物保全事業

手稲区 維持管理課 Tel.011-681-4011



専門家による自然観察会や作業指導を通して、自生植物の魅力を知っていただきながら、星置緑地、富丘西公園、稲穂ひだまり公園に自生するミズバショウ、スズラン、カタクリなどを、地域住民の手により保全する活動を推進しました。

<http://www.city.sapporo.jp/teine/dobokubu/kouenryokuka/hozennkatudou.html>



自然体験

自然や生き物に対する関心を深めることは、生物多様性への理解を促します。

月寒川にぎわい川まつり

白石区 地域振興課 Tel.011-861-2422



子どもたちを中心とした地域の住民が、地域の自然や環境について考えるきっかけとなるよう、河川環境専門家の指導のもと、月寒川に生息する動植物の観察体験を実施。

また、水車などを使った発電実験や、カヌー・チューブ乗りなど、子どもが楽しめるプログラムも実施しました。



環境教育

自然や生き物について知ることは、保全の取組を進める第一歩です。

昆虫採集会

観光文化局 市民文化課 Tel.011-211-2261



博物館活動センターでは、昆虫の若手研究者を講師にむかえ、小学校4年生から中学生（小学生は保護者同伴）を対象に定山溪の百松沢林道で昆虫採集を実施。その後、博物館活動センターに戻り、自分が採集した昆虫をプロの研究者と同じ方法で標本にしました。図鑑を使って昆虫の名前の調べ方も学びました。

